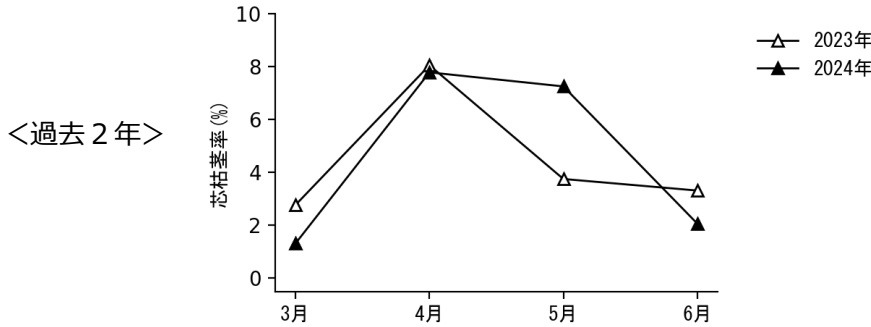
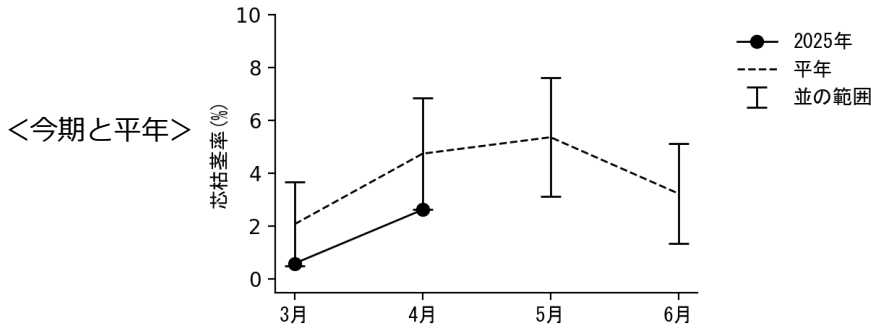


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	① メイチュウ類（カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ）			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	やや少		
予報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

芯枯茎率の推移（株出し）



- ・発生種：カンシャシンクイハマキ（84%）、イネヨトウ（16%）
- ・発生ほ場率81.2%（平年：93.8%）

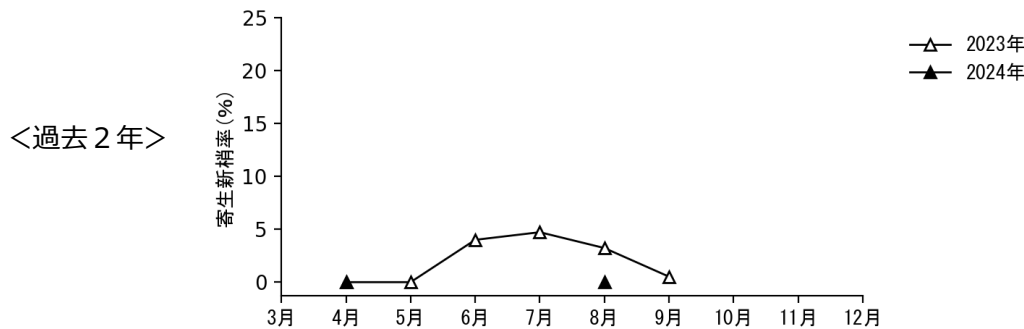
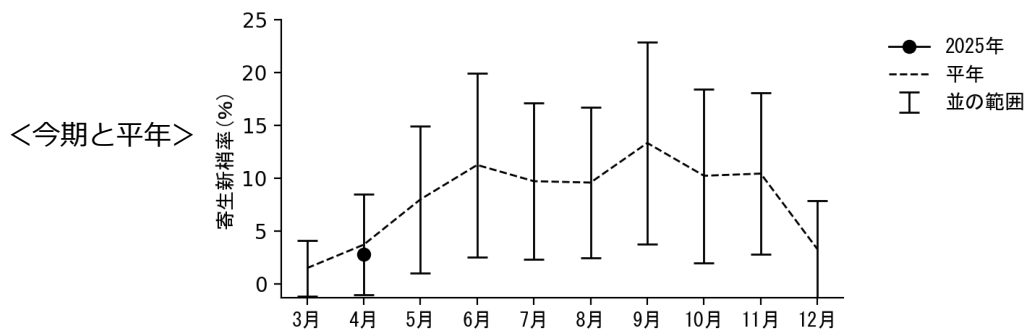
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① アブラムシ類		 ユキヤナギアブラムシ	
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生ほ場率40.0%（平年：31.7%）

防除のポイント

- ・テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。

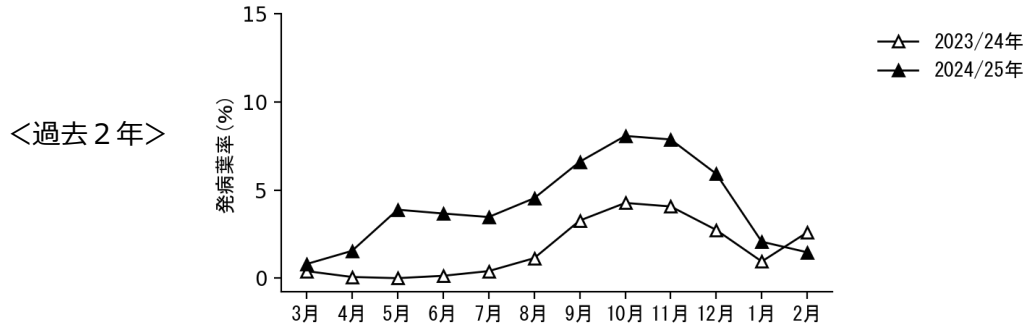
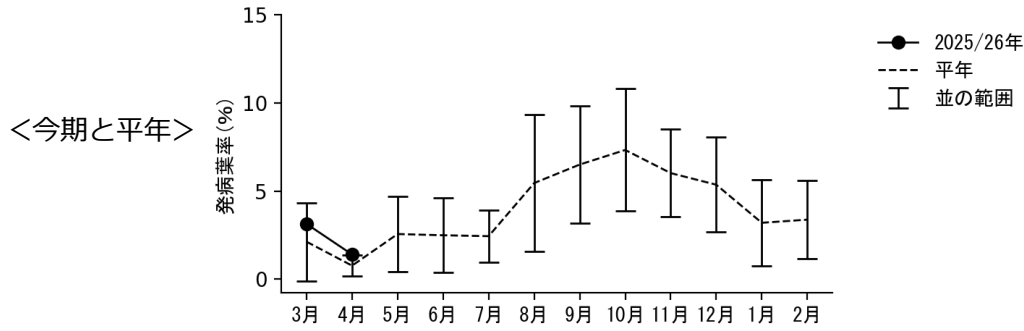


アブラムシに随伴するアシジロヒラフシアリ

作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	4 月からの増減傾向	↗		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

発病葉率の推移



- ・ 葉の発病度0.3（平年0.2）
- ・ 発生ほ場率80.0%（平年：43.8%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

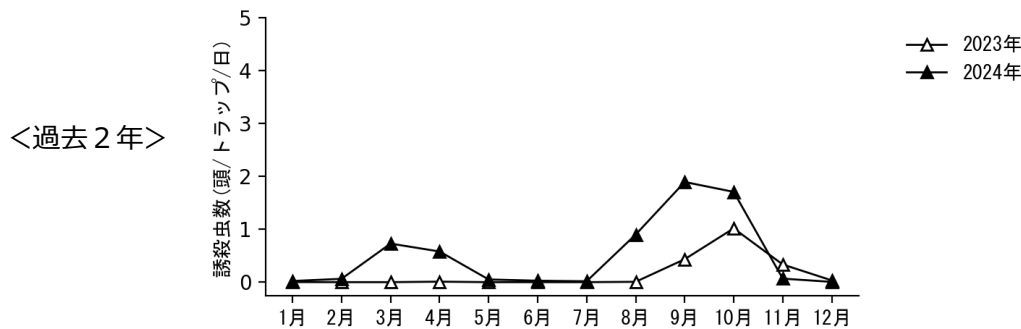
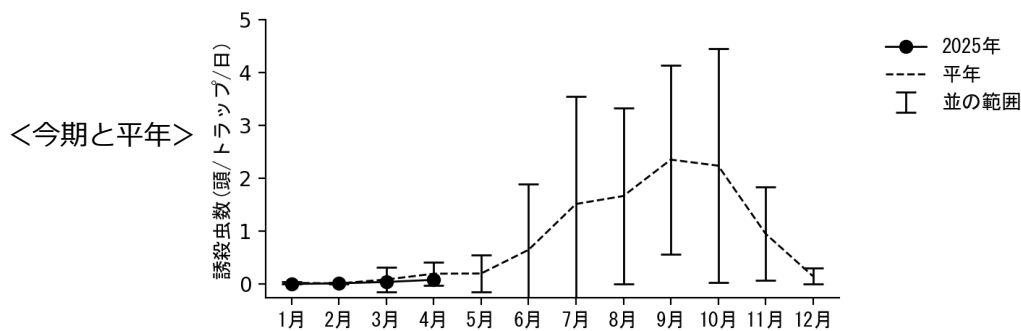
被害葉→



作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	4 月の発生量（平年比）	並		
予 報	4 月からの増減傾向	→		
	5 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率75.0%（平年：82.5%）

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ナガエコミカンソウ